Techno-Ocean News

TON Techno-Ocean Network

www.techno-ocean.com
January 2003
NO.8

CONTENTS ― 目次

Techno-Ocean 2002開催報告 ……1
Asia-Pacific Ocean Network Forum, 充実した内容で開催 ……2
青少年イベント「テクノオーシャン・ユース」……3
OCEANS '04 MTS／IEEE／TECHNO-OCEAN2004…3
「OCEANS 2002」盛大に開催 ……4

Techno-Ocean 2002 開催報告

海洋の科学技術に関する国際コンベンション「テクノオーシャン2002」が、11月20日から神戸国際展示場を中心に開催されました。

開会式では、大庭浩TON会長がはじめにあいさつし、産業構造の急激な変革の流れの中で、テクノオーシャンの開催をひとつの起爆剤として関連産業の更なる発展の機会となるよう期待します、と述べました。テープカットは、IEEE/OESやMTSをはじめ国内外を代表する方々にご参列いただき、華やかに行われました。

テクノオーシャンは、「国際シンポジウム」と「国際エキジビション」「学術研究団体展」の3本柱で構成しました。

「国際シンポジウム」は、基調講演に引き続いて、主催者側のオーガナイズによるスペシャルセッションと公募論文によるテクニカルセッションが行われ、前回を超える海外13カ国を含め全181編の論文が発表され、378名の参加登録をいただきました。

今回の国際シンポジウムの特徴は、テクノオーシャンに後援・協賛くださった団体みずから企画運営していただいたセッションを開催した点です。各団体のノウハウやネットワークを活かしたセッションには、多くの方々が関心を持って参加してくださりました。

一方、「国際エキジビション」「学術研究団体展」は、海外3カ国を含む78団体・147小間のご出展に10,114名（3日間合計）のご来場をいただきました。長引く景気低迷の影響もあり、前回と比較して規模の面では減少しましたが、各企業・団体の目玉となる取り組みがわかりやすく紹介され、各ブースでは熱心に質問をする姿が多く見られました。JAMSTECの特別出展エリアでは、巨大なブイなど観測機器の実物展示をはじめ、海底掘削調査船「ちきゅう」号の模型やパネルの展示、そして深海の映像をリアルに紹介する2つの映像ブースには、多くの方々が訪れ、海洋科学技術の最先端に触れる絶好の機会となったことでしょう。

また、23日には神戸商船大学において高校生を対象にした体験型イベント「テクノオーシャン・ユース」が開催され、他にも各種講演会・セミナーなどの同時開催行事も多彩に行われました。

「テクノオーシャン2002」が、多くの方々のご尽力とご協力により開催できましたことに感謝申し上げますとともに、次回2004年に向けた企画づくりにあたりましては、皆様方の有益なご指導・ご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

Asia-Pacific Ocean Network Forum、充実した内容で開催

ゲストスピーカーに 韓国海洋水産部前次官、内外から5氏を招聘

Techno-Ocean2002の国際シンポジウムとしての新しい試みとして、"Asia-Pacific Ocean Network Forum"が第3日の11月22日（金）午前に開催された。ゲストスピーカーに韓国海洋水産部前次官で、現・仁荷大学校総長のDr.Seoung-Yong Hong氏をお招きし、Guest Speakerとして包括的なスピーチをお願いした。それに続いて、中国、インド、インドネシアの各国およびIMO/GEF/UNEPの地域プロジェクトでフィリピンに本部を置くPEMSEA事務局、ならびにわが国の海洋科学技術センターからスピーカーを招聘した。その顔ぶれは別記のとおりだが、Hong総長からは海洋・沿岸域をめぐる地球規模ならびにアジア太平洋での課題ならびに韓国での取り組みについて実に内容の濃い包括的なスピーチをしていただいた。

これに続いて、各スピーカーからOcean&Coastal Management、Science & Technology Development、Capacity Buildingの三つを主題に発表がなされた。海洋大国を目指す中国、はるか遠く情報も新鮮に聞くことが出来たインド、太平洋の島嶼国家インドネシア、日本政府が2002年3月にようやく正式参加したPEMSEAプロジェクト、国際的な活動を展開する日本の海洋科学技術センターから、それぞれユニークな発表がなされ、引き続いて相互討論、意見交換が活発になされた。聴衆は必ずしも多くはなかったが、おりしもOTO'04協議のため参加していたアメリカIEEE/OES会長ならびにMTS次期会長（途中都合により退席のためメモをもとに専務理事が代理発言）からそれぞれ本Forumの趣旨と成果を評価し2年後のOTO'04での継続を期待する発言のほか、わが国の海洋関係有識者からも質疑がフロアからなされるなど、大変意義深いものとなった。今後、このNetwork Forumの発展的な継承が望まれるところである。

なお、Dr.Seoung-Yong HongのPresentationの内容はホームページに収録してあるので、是非参照されたい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

Chair

Mr. Hiroyuki Nakahara
Managing Director, Research Institute for Ocean Economics, Japan (Secretary, MTS Japan Section)

Guest Speaker

Dr.Seoung-Yong Hong
President, Inha University, Korea

Speakers

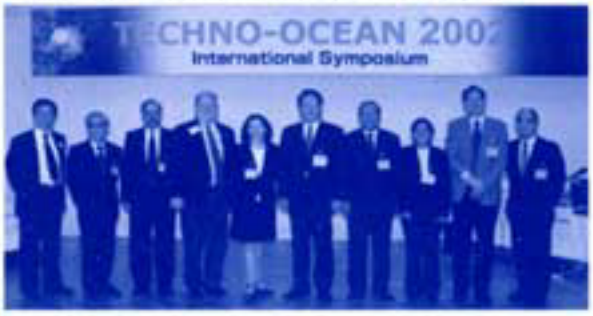
Dr. Gao Zhiguo
J.S.D. Executive Director, China Institute for Marine Affairs, SOA (State Oceanic Administration), China

Dr. M.R.Nayak
Senior Deputy Director, National Institute of Oceanography, India

Dr. Bonar P. Pasarib
Professor, Faculty of Fisheries and Marine Science, Bogor Agricultural University, Indonesia

Ms. Diane Facture
Training Officer, PEMSEA (Partnerships in Environmental Management for the Seas of East Asia), HQ in Philippines

Dr. Kazuhiro Kitazawa
Advisor for International Affairs, JAMSTEC, Japan



写真右から：北沢（JAMSTEC）、Gao（中国）、Facture（PEMSEA）、Pasarib（インドネシア）、Hong（韓国）、Krauthamer（MTS 専務理事）、Wiener（IEEE/OES 会長）、Nayak（インド）、酒井（TON理事長）、中原（同会）の各氏

テクノオーシャン2002（11月20日～23日）

無事に開催することができましたことを、みなさまがたにお礼申し上げます。

開催報告は次のURLにてご覧いただくことができます。
http://www.techno-ocean.com

ご意見・ご提案などございましたら次のアドレス宛にお願いいたします。
techno-ocean@kcva.or.jp

青少年イベント「テクノオーシャン・ユース」

神戸商船大学内の様々な施設の見学

テクノオーシャン2002の開催期間中の昨年11月23日（土）に神戸商船大学等において、「テクノオーシャン・ユース」が開催されました。この事業は、「テクノオーシャン・ネットワーク」が推進する青少年向けの海洋科学技術の理解増進事業で、今年度は、兵庫県を中心に公募した高等学校の生徒62名が参加しました。

深江丸船内での神戸商船大学講師Meegann氏による講演会

この日は、海洋科学技術センターの潜水調査船「しんかい6500」パイロットによる深海の特殊な環境や不思議な生物についての講演の後、「海を学ぶ」と「水中ロボット教室」の2つのグループに分かれ、海洋科学技術を体験しました。「海を学ぶ」では、神戸商船大学のさまざまな研究施設の体験・見学、実習船「深江丸」による体験航海と神戸商船大学講師Meegann氏による船上講演会が行われ、「水中ロボット教室」では、水中ロボットの組み立て、プールでの操作実習、神戸港で一般公開された潜水調査船「しんかい2000」とその母船「なつしま」の見学が行われました。

水中ロボットの組み立て実習

真剣な眼差しで実習に取り組む生徒や、講師に積極的に質問を投げかける生徒など、高校生たちは、いつもはあまり接するチャンスのない海洋科学技術を体感し、海への夢や憧れを一段とふくらませたようです。近い将来、彼らが海洋の世界で活躍する姿を期待します。

組み立てたロボットの操作実習

OCEANS '04 MTS／IEEE／TECHNO-OCEAN2004（略称:OTO '04）

3主催者が開催協定調印、"Bridges Across the Oceans"をテーマに採択

- ○主　催：MTS、IEEE/OES、CJO（Consortium of Japanese Organizers）*
- ○会　期：平成16（2004）年11月9日(火)−11月12日（金）
- ○場　所：神戸ポートアイランド（神戸国際展示場ほか）

*CJO＝Techno Ocean Network（TON）、MTS日本支部、IEEE/OES日本支部、海洋科学技術センター（JAMSTEC）、神戸国際観光コンベンション協会（KCVA）

アメリカで毎年開催されるOCEANS国際会議・展示会は、2003年はサンディエゴでのスクリップス海洋研究所創立100周年記念行事とあわせて開催されるが、その翌年の2004年は、日本の神戸でTechno-Oceanと同時開催される。Techno-Ocean2002の会期中にアメリカ側MTS、IEEE/OESおよび日本側CJOの三機関の代表者による開催協定が調印された。OCEANSがアメリカ以外で開催されるのは1993年のフランス以来2回目、アジアでは初。Techno-Oceanにとっては第10回という節目の開催にあたる。1月23日にOTO '04 Conference Committeeの第一回会合がもたれ、8つのSub-Committee編成など準備体制が整えられる運びである。

なお、Steering CommitteeのChairsは大庭浩（TON会長）、酒匂敏次（MTS日本支部長）、笠原順三（IEEE/OES日本支部長）、Organizing CommitteeのChairには浦環（東京大学生産技術研究所教授、IEEE/OES日本支部）、Vice Chairには中原裕幸（（社）海洋産業研究会常務理事、MTS日本支部）の各氏が、それぞれ就任する。

写真左から：Vice Chairs（MTS海洋産業研究会）、大庭浩（TON会長）、Vice Chairs（IEEE/OES日本支部）の各氏

「OCEANS 2002」 盛大に開催

米国海洋技術協会（MTS）と電気電子技術者協会（IEEE-OES）の共催による海洋に関する最大級の国際会議・展示会「OCEANS 2002」が、今年はニューオリンズから東へ約160 km、メキシコ湾沿いのリゾート地であるミシシッピ州ビロキシで、10月29日から31日まで開催された。参加登録者数は、2,160人と今年も盛況で、テクニカルセッションでは、434編の研究論文が発表され、展示会は、153機関の出展ブースで賑わった。日本からの出展ブースはなかったが、研究論文では、海洋科学技術センターや大学から10編が発表された。

初日の開会式に続くプレナリーセッション（全体会議）には、早朝にもかかわらず、300人以上が出席し、最初に、巨大軍需企業であるノースロップ・グラマングループの造船会社社長がグループの会社活動を紹介、特に軍への貢献を強調した。続いて、海洋科学技術センターの千々谷理事が、センターの最近の活動状況について、1）地球深部探査船「ちきゅう」の建造及び進水式の映像、2）地球シミュレータ（世界最高速を誇るスーパーコンピュータ）の概要及びシミュレーション結果の映像、3）センターの創立30周年記念として開催され、世界をリードする14の主要海洋研究機関の代表が出席した国際シンポジウムで採択された「横須賀宣言」などを中心に発表、出席者に強い印象を与えた。

Keynote Speechを行うJAMSTECチ々谷理事

その後、サザンミシシッピ大学教授から「海洋科学教育への投資」と題して講演があり、最後にミシシッピ州のコクラン上院議員が挨拶された後、テクニカルセッション（論文発表）に入るとともに展示会が公開された。

今年もＡＵＶ（自律型無人潜水探査機）関連のメーカーの展示が目立ち、論文発表でもＡＵＶ会場がいつもほぼ満員の盛況であった。また、海洋関係の技術開発・研究に対する米国海軍のプレゼンスの大きさも強く感じられた。開催期間中に昼食会が２回開かれ、各賞の授与式が行われたが、日本から日本大学前田久明教授が大きな拍手を受けてフェロー賞を受賞された。

この「OCEANS」が、2003年9月サンディエゴ開催の後、2004年11月には、神戸でテクノオーシャンと共同開催されるが、会場では合同開催のパンフレットが配付され、参加者の注目を集めた。この共同開催には、アメリカを初め海外から多数の参加者が予想され、米国での開催を上回る活発な国際会議・展示会となるよう期待が大きい。

OCEANS 2003

Celebrating the Past...Teaming toward the Future

September 22-26, 2003

San Diego, California

www.oceans2003.org

掲載記事募集！！皆様からの情報をお寄せ下さい。
e-mail:techno-ocean@kcva.or.jpまで

編集室から

清清しい気持ちで新年を迎えたいのだが、癸未（みずのとひつじ）年は、経済が不調で社会情勢も悪いとの占いである。12年前を振り返れば、湾岸戦争勃発にソ連邦崩壊、バブル景気が失速した。災害では北のピナツボ火山噴火、中国で大水害が起きた。嫌な話ばかり。そこで明るい話題を探したら、深海１万m無人潜水調査船の建造があった。何か今後の行方を暗示させる？。頼みの綱はやはり海洋開発ということか。（地）

Techno-Ocean News No.8 2003年1月発行（年4回）

発行：テクノオーシャン・ネットワーク
〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目11-1
（財）神戸国際観光コンベンション協会内
☎078-303-7516 FAX078-302-1870
URL: http://www.techno-ocean.com
e-mail : techno-ocean@kcva.or.jp
ロゴ＆表紙ヘッダーデザイン：東 恵子（東海大学短期大学部助教授）